



## 日立市コミュニティ推進協議会

# 花を育てる活動を通して地域力アップも！

23コミュニティ単会は「自分たちの地域は自分たちの創意と努力でつくり上げる」という設立当初の理念のもとに活動しています。今年度は行政と協働

で本年開催の茨城国体に向けて、花いっぱい運動に取り組むと同時に、これを契機に地域の課題解決と活性化につながる活動にも取り組んでいます。

### コミュニティのつどい講演会 住民主体のまちづくりを学ぶ

2月24日(日)、ゆうゆう十王・Jホールを会場に、コミュニティ推進協議会主催の講演会を開催、約280人が参加しました。

「住民が創る地域運営組織と人づくり」をテーマに、NPO法人「きらりよしじまネットワーク」事務局局長の高橋由和さんに講師をお願いしました。

きらりよしじまネットワークは、山形県川西町吉島地区の全世帯が加入する、全国でも非常に稀なNPO法人です。

設立のきっかけは川西町の行財政改革でした。行政に頼るばかりではなく、地域の住民があらゆる分野で活躍して様々な課題に対応、

30年先を見据えた地域づくりをしています。「住民だからこそできる地域づくり」を念頭に置き、地域組織を再編、協議機能と実行機能を一体化することで、会議の簡素化や、意思決定の迅速化を図ることができています。



講師の高橋由和さん

また、自主事業の開発や収益事業、行政と協働した委託事業の受託により多様な財源を確保しています。行事に関しては、その場限

りのものではなく、住民の想いを「見える化」する地区計画を作成し、計画に沿った事業展開を行っています。

人材発掘・育成についても、独自の取組を行っており、自治会から推薦された若者に対し、段階的にスキルアップの機会を重ね、時間をかけて育成しています。

講演では、これらの仕組み、実践してきた取組など、具体的な活動事例を交えた話を聞くことができ、参加者からは「大いに刺激を受けた」、「人材育成のプロセスが素晴らしい」などの感想が聞かれました。人口減少や高齢化が進んでいる今こそ重要視される、地域運営を担う人材育成の仕組みづくりなどを学ぶことができました。

### 国体を契機に コミュニティの取組を報告

コミュニティのつどい講演会に先立ち、国体を契機に平成30年度に各コミュニティが取り組んだ①コミュニティ活性化事業、②まちを花で飾ろう事業の2事業について、3学区(豊浦・会瀬・水木)の代表による報告会が行われました。

発表できなかったその他の学区でも、それぞれに工夫を凝らした活動が行われています。これらの活動は、「活動事例集」として日立市コミュニティ推進協議会のホームページに掲載する予定です。ぜひご覧ください。

#### ■豊浦学区まちづくり推進会

①夏祭り花火大会、市民体育祭、三世代文化祭の各イベントを盛り上げる企画を実施しました。バンドの生演奏や保育園児による和太鼓の演奏など、大人も子どもも楽しめる企画ばかりで、来年も実施してほしいとの声が多数寄せられました。

②川尻町国道6号沿いの花壇、かわじり第一児童公園の花壇を整備しました。

#### ■会瀬学区コミュニティ推進会

①ゴミ収納ボックスの表示板を作成、設置しました。表示板のデザイン、文字の構成について議論を重ねて、国体に向けてのPRメッセージを掲載しました。さらに「み

んなできれいな会瀬づくり」の標語により環境美化の意識高揚にもつながりました。

②会瀬交流センター内の花壇を中心に整備しました。

#### ■水木学区コミュニティ推進会

①「かかし&イルミネーション祭り」を開催しました。水木交流センター広場には、常陸太田市から借用した「かかし」と、水木小学校児童の「かかし」の作品を展示しました。若い人たちを中心に、交流センターに足を運んでもらう機会の増加につながりました。

②水木交流センター、森山町国道6号沿い、水木小学校入口歩道橋山側花壇を整備しました。

## 地域コミュニティ「住民の移動手段」を支える 交通事業者・行政と協働で!

日立市では地域住民、交通事業者、行政の三者が協働して、知恵と工夫によって路線バス維持への努力が続けられています。また、地域の实情に合った新たな交通により、住民の生活の足を確保しています。

日立市では、地域、事業者、行政で「パートナーシップ協定」を結び、市民生活の足を確保するための路線バス運行を10年前、諏訪学区から始めました。

その後、地域住民の要望を受け、高鈴台団地、中丸団地、塙山学区、青葉台団地・堂平団地、山の神団地が加わり、現在6団体が事業を展開しています。

いずれの地域も少子高齢化が急激に進み、路線バスを利用する通勤・通学の利用者が減少して、乗車率も低下の一途を辿っており危

機的状況になっていました。

それぞれの地域の路線バスを守るために、利用者が増えるよう三者が協働して様々な利用促進策を行っています。

### ■路線バス利用促進イベント



イベント会場でもPR

- 住民交流会等で、専門家の話やお楽しみコーナー等の実施
  - 夏・秋まつりでのPR活動
  - 障がい者支援施設との合同開催
  - 子育て講座、児童クラブ、老人会などの路線バス利用
  - スーパーマーケットを経由するルートの開設
  - 活動や利用状況、児童たちの絵などを定期的に住民へ広報
  - 地区懇談会、アンケート調査
- 「パートナーシップ協定」を活かし、住民が安心して生活が出来るように活動が続けられています。

## 中里地区はデマンド方式 乗合タクシー「なかさと号」

平成21年5月から、日立市下深荻町、中深荻町、入四間町、東河内町を乗合タクシー「なかさと号」が、「公共交通空白地有償運送」として自家用車で運行中です。

運行主体はNPO法人「助け合いなかさと」。8人乗りワゴン車2台で、1日4便、平日のみ運行、利用者の事前予約で運行経路や運行スケジュールを合わせて運行するデマンド方式です。

全世帯からNPOの会費1世帯年約2,000円を徴収、オペレー

ターや運転員も地域住民が行っています。運賃は中里地区内の1外出300円、地区外の鞍掛山霊園などは往復300円、小・中学生は150円です。

中里地区の高齢者等が、生きがいや健康づくりを目的に市内で実施されるイベントに参加する場合は、日立市公共交通会議が事前に承認した会場まで限定的に運行できるようにしています。

## 市南部の住民の生活の足 乗合タクシー「みなみ号」

平成19年5月からJR大甕駅と坂下地区(留町、下土木内町、茂

宮町、神田町、大和田町)を結ぶルートで、10人乗りワゴンタクシーでの乗合タクシー「みなみ号」の運行が始まりました。



南部の人たちの移動を考える

現在、片道1乗車200円で1日4往復、月曜日から金曜日の平日のみ運行、路線バスと同じように地区外の人でも利用できます。国道上や交差点付近などを除いて、停留所以外でも降車することができます。

地区の住民組織が事業主体となり、運行に対する「責任と費用の分担」を前提に、日立市の支援のほか、地区の住民が費用の一部(年2,000円/世帯)を負担しています。

高齢者や運転免許を持たない人たちの通院や買い物など、生活に欠かせない移動手段となっています。

## 小学2年「バスの乗り方教室」興味を持つきっかけに!

日立市では小学校等の協力で小学校2年生を対象に「バスの乗り方教室」を実施しています。

教室でチラシやスライドを使った学習と、校庭に乗り入れた路線バスで、設置した複数の仮停留所間をICカードや模擬貨幣を使って乗降します。平成30年度は油繩子、大沼、仲町、塙山、滑川、水木、大久保、諏訪、宮田、田尻

の各小学校及び特別支援学校の計11校が実施しました。学習を通して路線バスに興味を持つきっかけになり、将来の利用促進につながることを期待されます。



乗り方もおぼえたいよ!



## 市社協のネットワーク 強化モデル事業 さらなる地域福祉の充実を

急激な少子高齢化や人口減少、家族構成の変化など地域社会の機能も変わりつつあり、その変化に対応した地域の福祉活動が求められています。

日立市社会福祉協議会では各コミュニティと連携しながら、高齢者や障がい者など、支援を必要とする人たちが、より安心して過ごせるまちづくりに取り組んでいます。

その一つが「あんしん・安全ネットワーク強化モデル事業」です。これは、通常のアんしん・安全ネットワーク対象者の中で、日常生活がより心配な方の定期訪問や、専門職を含めた関係者の横のつながりを強化した取組で、毎年、実施する地区を決めて取り組んでい

ます。

今年度は、昨年度から実施している田尻、仲町、塙山に加え、日高、助川、諏訪、金沢、水木で実施していますが、数年後には全地区展開を目指しています。

実施地区では専属の担当者を決めて以下のことを行っています。

- ①強化モデル事業対象者絞り込み。
- ②対象者の生活状況や介護サービス利用状況を把握し、個別票の取りまとめ。
- ③毎週1回、関係者に対象者の生



どうもねえ、元気ですよ！

活状況を確認。

- ④毎月1回以上、対象者宅を訪問。
- ⑤対象者の様子に課題があれば地域関係者や関係機関と一緒に支援についての検討会議を開催。
- ⑥毎月10日までに市社協に月次報告書を提出。

この他に各地区の特性を生かした提案型地域福祉事業の助成、対象者宅を専門家の目で点検する巡回安全サービスなども行っています。

これらの事業には近隣協力者をはじめ、自治会、ボランティア、民生委員、地区社協関係者などいろいろな立場の人が関わり見守っています。しかし対象者の増加、協力者の高齢化などがあり、さらに充実するには、より幅広い協力者確保などが必要になりつつあります。

## コミュニティのおもてなし 「再発見ウォーク」を活かして

国体成功への支援活動の中には、おもてなしの心で温かく迎える活動、そして、日立市の魅力を発信する活動があります。

また、国体期間中は市民をはじめ、より多くの来訪者に日立市の魅力を紹介する絶好の機会です。



森林の中をウォーキング

平成11年にスタートした「日立の魅力再発見ウォーク」は、日立の歴史や自然をより深く知ることができ、歩くことでより健康維持ができるなどの良さがあります。また、コミュニティ単会が地域の特色を最大に活かしたコースを設定しており、抽選会や豚汁の提供などの楽しみも加えています。

市民に定着してきた日立の魅力再発見ウォークには、学区外や市外の参加者も増え、リピーターも多くなっています。参加者の中には、自身のブログ等でコースを紹介してくださっているかたもいて、「天気にも恵まれ、最高に気持ちよ

かった！見どころも多く、美味しいものもゲットできた、約12km、2万歩強のウォーキングでした。」との声もあります。

コミュニティや交流センターがおもてなしの心で日立の魅力を発信する拠点になっています。

## まずは地域を知ることから 市役所新任職員コミュニティ研修

日立市役所の入所1年目・2年目の職員が「コミュニティ活動体験研修」に参加しました。

コミュニティ活動の理解を深めることを目的として平成26年度に始まり、今年で5回目の取組です。

事前研修でコミュニティ組織の概要について学び、その後、各コミュニティで地域活動に参加しました。敬老会や夏(秋)まつり等への参加・事前準備を通して、地域の人たちと積極的な関わりを持つことができました。

平成31年1月11日(金)の報告会では、参加した行事の報告や意



熱心に議論する若手職員たち

見交換が行われました。「世代間の交流が図れる」「実際に参加してみると楽しい」など、それぞれに充実した体験研修となったようです。また、それらを若い世代の参加へ結びつけるためにはどうすればよいかなど、アイデアを出し合いました。

市職員として、また地域の一員としてコミュニティとの関わりを改めて考える機会になりました。





# こみこみ

日立市のコミュニティ情報紙

No.43

(4)

## 単会の活動紹介 時代のニーズに応えた特色ある取組

日立市コミュニティ推進協議会全体で進める活動のほか、コミュニティ単会が地域の実態に合わせて、創意工夫して実施している活動があります。時代の

ニーズに応えた地域福祉、青少年育成、防犯・防災活動など、他の単会の参考になるような特色ある単会の取組を紹介していきます。

### 支部ごとの持ち回り訓練から 学区全体での防災訓練へ 十王地区コミュニティ推進会

平成30年11月18日(日)、十王地区コミュニティ推進会の自主防災訓練が櫛形小学校で実施され、各支部から314名が参加しました。

地区範囲が広い十王地区は、毎年支部ごとに持ち回りで行う避難訓練でしたが、平成30年度は支部単位の訓練が一巡したことから新たな視点で計画された十王地区全体での初訓練となりました。

概要は、自宅から避難所までの避難訓練と避難所に入ってから初期の行動・対処の実際を大まか



新たな視点で自分の役割をチェック

に実践するという「避難所立ち上げ訓練」です。この訓練は、避難者自らが「自助・共助」の心で協力し合って避難生活を乗り切ることがねらいとなります。

今回は「受付班」「物資準備班」「物資配布班」「健康観察班」「環境衛生班」「情報伝達班」の6つの班を作り、班長を中心に運営の実際を体験しました。

それぞれの役割や内容に課題を見つけながら、災害の中にあっても過ごしやすい避難所となるような体制を整えていく必要があると深津正孝会長は考えています。

自分たちで地域を守り、コミュニティをつくる機運が高まる訓練になることが期待されます。

### 十王学区の子どもたち 体育館宿泊体験で防災を学ぶ

十王学区子ども会育成連合会主催の「第10回子ども防災宿泊体験」が11月17日(土)～18日(日)にかけて、櫛形小学校体育館

で実施されました。

十王地区では子ども会が減って子ども会員だけでは参加者が少ないことや、体験10年目の区切りということで、コミュニティの自主防災にあわせて参加者を募りました。小学生は21名でしたが避難所体験や災害時に役立つ物作りなどを楽しみながら学びました。



新聞紙でスリッパ作り

この宿泊体験は子どもの頃から防災に関心を持ち、自ら行動できる将来の防災リーダーを育てる目的で始めた活動です。「地域の子どもは地域で育てる」という大きな目標を持つ大人が増え、そして助け合いの精神が育ち、災害にも強い地域になってほしいものです。

### 連携がもたらす相乗効果 ひたち生き生き百年塾推進本部

昨年10月、日立シビックセンター新都市広場などを会場に、ひたち生き生き百年塾と日立市子ども会育成連合会が一つとなった「百年塾フェスタ&日立市子どもまつり2018」が開催されました。

共催を目指し数年前から話し合いを重ねてきた両団体。当日は抜けるような青空の下、子どもたちの元気な開会宣言をスタートに、会場はいつにも増して家族連れや

たくさんの来場者で賑わい、子どもたちの歓声が響いていました。

連携することで尊重し合い、互いの良さを最大限に発揮して相乗効果となるような体制の必要性和意義を感じたフェスタとなりました。



子どもたちや若者が大活躍

### コミュニティFMで コミュニティ情報発信中!

コミュニティFMでは、各コミュニティの活動やイベント情報などを紹介しています。各コミュニティの担当者が出演することも。

#### ■放送局

FMひたち(82.2MHz)

#### ■放送日時

毎週土曜日13:35頃～(約5分間)

#### ■番組名

「いいね!がイッパイ日立市

Saturday コミコミ情報局」